

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500014		
法人名	株式会社 マウントバード		
事業所名	グループホーム みどりの家 2F		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町2-11-105		
自己評価作成日	平成30年11月6日	評価結果市町村受理日	平成31年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	平成30年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「笑門来福」という新しい理念の元、入居者様一人一人が笑顔で、その人らしい暮らしを送る事ができるように、支援に力を入れています。  
医療保険を使ったデイケアのご利用が可能で、希望される入居者様もしくはご家族様がいれば、手続きを経てデイケアとグループホームの二つのサービスを併用しながら、入居者様の支援を行っているのがアピールしたい点です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より「笑福来門」という理念を掲げ、管理者と職員が共に共有し合えるように、広めて反映できるよう実践中である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	回覧板を受け渡すやりとりの際に近隣地域の方と交流を図ったり、地域の方とお会いする機会の時には、つながりを意識して交流を大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方がイベントに参加された時や、地域の消防署の職員が消防訓練の行事で来所された時に、認知症についてや認知症の方への支援などについて発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回、計年4回運営推進会議を行い、サービスの取り組みや提携している医療機関の方にも参加して頂き、家族様にサービスの説明をして頂きながら、話し合いを行いサービスの向上を図っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム長や管理者が主に取り組んでいる。入居者様の認定調査の件などで相談に乗って頂いている事もあり、返答から今後の取り組みや対応に繋げている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、年4回身体拘束について話し合いを行い、職員に広めて反映させて知識を深めるよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に職員は参加する様にしており、研修内容を職員間で話し合い、入居者様への対応が適切か不適切を検証し、不適切なケアの防止に取り組んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員が入れ替わりに外部研修に参加する様に取り組み、学んだ内容を資料等作成し、職員の間広め知識を学ぶ事ができるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しての説明の際には、ホーム長・管理者が時間をかけて不安や疑問点などの意見を出し易い雰囲気作りに努めながら、説明を行い了承・納得ができたうえで契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会に来られた時に、入居者様の最近の様子を伝える等、意見・要望のやり取りを行い、その際に運営に関する意見・要望があれば、職員に広めて反映させるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング以外にも時間を設けるように努め、職員間と話し合いを行い、運営に関しての意見・提案を出し合って反映させて取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々と話し合う時間を設け、労働時間(勤務形態)の職場環境整備を行い、職員のやりがいや目的意識を明確にして、向上心に繋がれるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の職員には、社内の新人研修に参加し、職員個々の希望にて受けたい研修があれば、研修に参加しケアの技術・知識を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の同業者が参加している研修に職員が参加して交流する機会を作り、他の施設の取り組み等傾聴し、ミーティング時などで職員間に反映させるように取り組んでいる。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の入居時には、慣れていない環境故に、不安点やわからない事が多く、その都度入居者様の耳に声を傾け不安を解消するよう努めながら信頼関係を築き安心できる環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を検討している家族様には一度施設見学をして頂き、施設見学時よりサービスについて疑問点・不安点などを傾聴して対応をし、入居契約前から入居契約時にかけて関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居契約時にサービスについてや、希望としている支援について話し合い、ケア方法を決めていき対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様は介護される立場に決めつける事なく、できる事はご自分で行って頂き、時には暮らしを共にする関係として、食事を一緒に作ったり、掃除を一緒に行ったりと支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様によっては、入居者様の病院受診対応をお願いしたり、家族様の要望で外出したりと、家族様と入居者様との関係性を大切にしながら信頼関係を職員とも築きあげるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のご友人や知人の方から電話を頂いたり、施設に来所されて面会したりと、馴染のある方との関わりを継続していけるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮して、共有スペースにおいての座席の調整・配慮を行い、時に職員が関わりを持つようにして、入居者様同士の関わり合える環境・雰囲気作りを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去をきっかけに契約が終了しても、ご家族様からの相談等あれば、支援するなど必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様と常日頃からコミュニケーションを取り、信頼関係を築き上げ、入居者様にとって話し易い雰囲気を作り、希望・意向を引き出して把握するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様との契約時の際に、生活歴・暮らし方を傾聴したり、アセスメントシートからも情報を得たりと、情報収集を意欲的に取り組み、職員は把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、入居者様全員分の介護記録を記入し、普段の暮らしの状況を把握するように努め、変わった事・特変時には日報に記載したり、申し送りにて伝え職員間で現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活面や支援方法について、ご家族様やご本人様の要望について話し合う機会を設け、職員の目線からの意見やアイデアをも考慮しながら、介護計画を作成するように取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別の介護記録に記入し、支援方法について職員間で話し合い、工夫や改善しながら支援方法の見直しを図り、申し送りのノートに記載して情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズに対して職員間で連絡を取り合ったり、関係機関と連絡をして協力を得たりして、常々生まれるニーズに対応できるように取り組んでいる。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方へ回覧板を回す際に、交流を深めるようにしつつ、活用できる地域資源等があれば傾聴し把握するように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主なかかりつけ医であるすずらんクリニックとは、連携を築いて往診にも来て頂いており、入居者様とご家族様の希望も直に傾聴しながら、適切な受診の支援ができるような体制を構築している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時と月二回、看護職員が来所し入居者様の健康状態の把握に努め、入居者様の体調の異変時には連絡を取って相談し、受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ職員がお見舞いに伺ったり、医療機関へ連絡を取り合い、入院中の様子など情報の収集に努め、退院した場合には主治医からのケアの方法や注意点などの情報を傾聴し、支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の終末期については、本人様の意向が確認できないケースが多く、ご家族様と早い段階で話し合いを行い、関係機関を含めて対応できる事を説明したうえで、意向・支援方法についての方針を決めて取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の事故・急変時には、すぐさま別ユニットの職員も含めて連絡を取り合い、状況に応じて協力して対応するよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防署の職員立ち合い元、消防避難訓練を行い、入居者様・職員が実際に避難する行動を行い身に付ける事ができるように訓練を行っている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様は職員にとって目上の方々であり、積み重ねた誇りや私事に配慮・考慮しながら言葉かけや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様とコミュニケーションなど触れ合う際には、入居者様の考えている思いや希望について表出しやすい雰囲気を作りながら対応し、どうしたいかを傾聴し、入居者様自身で決定して頂くように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々の生活ペースの把握に努め、尊重し1日を暮らしを入居者様の希望に合わせて送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみなどについては、入居者様の自己選択と自己決定を尊重して取り組んでいる。入居者様が迷っていたりした場合には、職員が相談に乗って自己決定を促せるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様によっては、食事作りの下ごしらえを職員と一緒に頂いたり、食後下膳して頂いたり入居者様個々の有する能力を活用して取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	関係のある医療機関より、入居者様によっては水分摂取量の制限や、食事量の工夫に取り組んでいる。支障がない入居者様には、食事量・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様全員、食後に口腔ケアを行って頂いている。提携している訪問歯科に定期的に来所して頂き、入居者様の口腔内の確認やケアをお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様全員分の排泄チェックシートを記入し、排泄パターンや習慣の把握に努め、排泄の失敗を少なくするように、職員からトイレの声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の改善に繋がるように、1日の水分摂取量を多く摂取できるようにしたり、運動するように促したりと、入居者様個々に合わせて工夫を施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2・3回は入浴するように支援している。入居者様の了承の元、入浴予定表を作成しているが、受診や外出・体調不良等、状況に応じて個々に添った入浴の支援に取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	普段の暮らしの中では、食事や入浴・レクリエーション時以外は、余暇の時間にしており入居者様各々のペースで自由に休息・静養して頂けるような環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表を作成し、薬の効能の明記や時間帯ごとに服用している薬の錠数も含めて、確認を行い薬の変化等については連絡ノートへの明記や申し送りにて取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人一人の生活歴から、趣味や得意な事など長所を把握し、入居者様各々が好きな時に行って頂いたり、仕事・役割をお願いして入居者様の長所を活用しての支援に取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望する入居者様がいれば、施設周辺の散歩に出かけられるように支援に努めている。ご家族様の協力の元、外出に出かけられたりしている。		

【評価機関】



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失防止の為、職員がおこづかいを管理しているが、入居者様のその時々希望や必要に応じて、渡して買い物に行く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時折、家族様に電話をかけたいと話す入居者様があり、希望に合わせて職員が電話を繋いだ後、直接本人様と家族様が電話で会話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、毎日整えるように心がけており歩行しやすい環境を作っている。時期ごとに季節感のある掲示物を展示したりと、共有の空間に居心地の良い環境を考慮して取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段の暮らしの中で、入居者様同士の関係性を把握し共有スペースにおいて座席調整に反映させている。又、TVの近くにソファや椅子を配置して独りでくつろげるような環境も整備している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具に関しては、入居以前より自宅等で使用していた家具を持ち込んだりと、使い慣れた物を施設でも使用して頂くように対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の各居室には名前を掲示したり、トイレやお風呂場にもプレートを作り、判別しやすいようにし、自立した生活を送れるような環境について工夫しながら取り組んでいる。		

【評価機関】